

プロジェクト 「わたしのみらい」

2022年12月21日
政府のGXで未来を守れるか

「わたしの未来」はこのお子さんのメッセージから



ここでの「わたし」は、

今話している「わたし」
今日参加している皆さん一人ひとりの「わたし」
まだ選挙権もない子供一人ひとりの「わたし」
原発事故で避難生活を余儀されている一人ひとりの「わたし」
途上国などで気候災害にあって困窮している一人ひとりの「わたし」
.....

全ての人です。

キャンペーン「わたしのみらい」

背景:

気候危機の解決のためには社会の変革が必要であり、それには政府の政策の変更が必須。

政府の政策を変えるためには、アクションをベースにした市民運動から、様々な社会運動(気候危機、原発、再エネ、プラスチック、森林保護、生物多様性、格差など)に携わる団体が協働した、長期的戦略に基づいた規模が大きい市民運動に変革する必要がある。

キャンペーンの現状:

9月の世界気候マーチを第一歩として活動をはじめ、既に150を超える賛同団体がある。

<ビジョン>

気候危機、環境汚染、格差と貧困、人権侵害……。世界が向き合う課題を市民一人ひとりの参加で民主的に解決できる、公正で平和な社会にしたい。

そして、将来世代の安心のために、遅くとも2050年までに自然エネルギー100%で暮らせる真に豊かな社会にしたい。みんなで、早く、そんな社会をつくっていこう。

<2030年までの中期目標>

・気候危機を最小限にとどめ、1.5℃目標を確実に実現するためには、2050年までの可能な限り早い時期での自然エネルギー*100%の実現、そして2030年までに60%以上のCO2削減が求められています。この目標の実現可能な実行計画を政府に設定させることを目指します。

・そのためには、環境汚染、格差と貧困、人権侵害などの多様な課題に取り組む人たちとの連携を強め、参加と民主主義の政治を促進し、2024年に予定されているエネルギー基本計画の改定、2025年に行われる国政選挙という節目で、大きな政策転換をめざします。

*原発、化石燃料由来の水素、アンモニアを含まない

<活動ルール>

このキャンペーンにおいては、賛同各団体の個性を活かしつつ、連合体でなければできない全国的運動を行います。

- ・賛同各団体はお互いを尊重し、できる範囲で協力します。
- ・賛同団体は地域単位のネットワーク作りに積極的に取り組みます。
- ・特定の政治団体とは連携しません。

<活動方針>

2030年までの中期目標を実現するために、以下の活動方針を実行します。

- ・気候危機を回避するために行動する市民を増やし、年に1回以上の大規模な全国アクションを、その年の節目となる時期に実行します。
- ・2024年のエネルギー基本計画と2025年の国政選挙という中期的な節目までに、全国規模で数万人規模のアクションをめざします。
- ・行政(政府・自治体)や議員に対して、ロビー活動、パブコメ、陳情・請願、議員チェック、署名などの活動を通して政策転換を要求します。
- ・地域での賛同団体間の連携を積極的に追求し、パワーアップをめざします。
- ・2023年の統一自治体選挙では地域から気候危機に取り組む気運を作ります。
- ・様々なテーマの運動との積極的な対話を進め、連携を強めます